

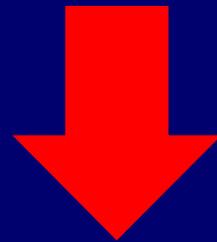
新学習指導要領における思考力、 判断力、表現力の評価について

教職員支援機構
大杉昭英

発表のポイント

指導と評価の一体化という観点から見ると、

新学習指導要領で、児童生徒の学びの改善を図る方途が示された。



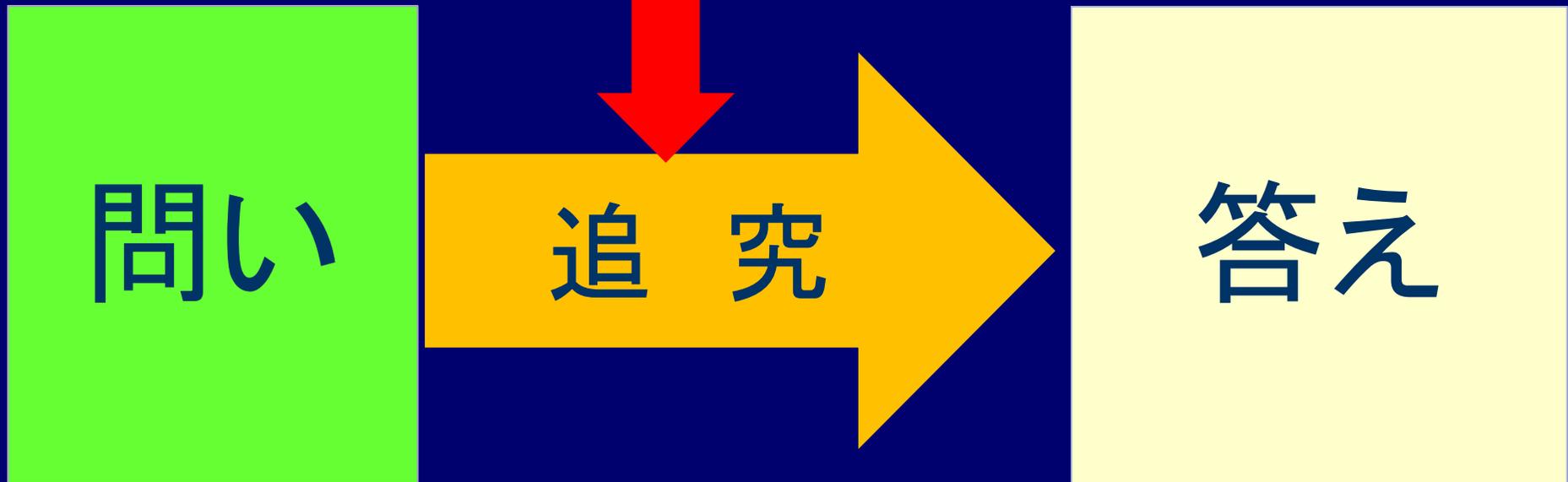
学びの改善に基づいて、児童生徒に思考力、判断力、表現力が育まれたとき、それをどう評価するか？

児童生徒の学びの改善を実現する 各教科の指導の方向性

教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、探究的な学習活動の中で、資質・能力(ここでは思考力, 判断力, 表現力)を育む。

学びの改善をモデル化すると

追究の過程で、見方・考え方を働かせ、知識・技能を活用して考え、判断し、表現する学習活動がある。



「問い」と「答え」の間をつなぐ学習活動

思考・判断・表現の過程について

中学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編 P78

思考・判断・表現の過程には、

- ・ 物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- ・ 思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

の大きく三つがあると考えられる。

各教科等の特質に応じて、こうした学習の過程を重視して、具体的な学習内容、単元や題材の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要である。

学びの改善をモデル化すると

追究の過程で見方・考え方を働かせ、知識・技能を活用して考え、判断し、表現する学習活動がある。

問い

(学習課題など)

追究

(解決、精査、構想)

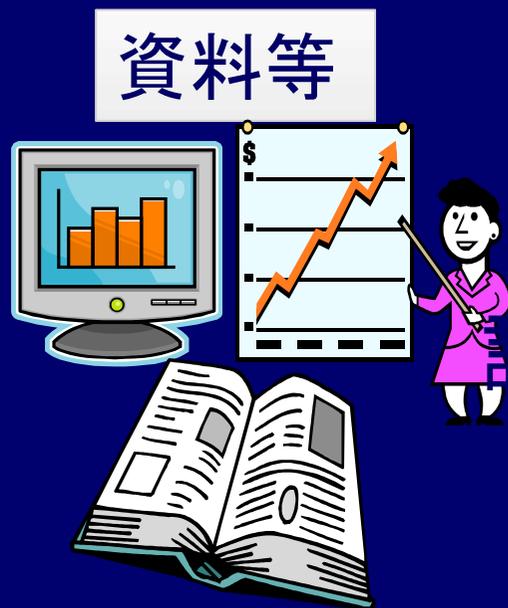
答え

(解決策、自分の考え、作品)

○「問い」と「答え」の間をつなぐ学習活動

疑問形・提案型の学習問題に対する追究プロセスは、**見方・考え方を働かせ**、知識・技能を活用して考え、判断し、その過程や内容を表現する活動となる。

「問い」  「答え」



- 深い理解
- よりよい解決策・考え
- 価値あるもの

資質・能力を育成するキーワードとなる 見方・考え方の働かせ方

各教科で、考える対象を特定した上で、

プロセス,
手続き型

学習活動において思考・
判断・表現するプロセスや
手続き

概念的枠組
み型

概念や理論という枠
組みで事象を捉え、
それを用いて考え、
判断し、表現する

プロセス, 手続き型

「社会的事象の歴史的な見方・考え方」については、・・「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」とし、考察、構想する際の「視点や方法(考え方)」として整理した。

(中学校学習指導要領解説 社会編p83)

概念的枠組 み型

「現代社会の見方・考え方」については、・・「社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること」とし、考察、構想する際の「視点や方法(考え方)」として整理した。

(中学校学習指導要領 解説 社会編 P126)

プロセス,
手続き型

課題1

どのような知識・技能が活用されるかで、思考・判断・表現の質が決まる。

追究プロセス, 手続きに沿って答え(作品等)を導き出し, その導出過程と結論を説明することができたかどうかで評価する。

概念的枠組
み型

課題2

活用される理論は年齢によっては習得が困難であり, そもそも小学校では少ない。

問題を概念的枠組み(理論)で捉え, 因果的説明の枠組みとしての理論に基づいて答え(解決策)を演繹的に導き出し, その導出過程と結論を説明することができたかどうかで評価する。

課題3 → 知識・技能と思考, 判断, 表現との関連性を問う

三つの確認テスト(いわゆるイモヅル式のテスト)が必要ではないか？

問題・課題
の状況に
関する知
識・技能が
習得されて
いるか

答え(作品)
を導き出す
ための知
識・技能の
習得ができ
ているか

知識・技
能を活用
して答え
(作品)を
導き出せ
たか

例えば, 問題状況に関する知識がないと, 答えを導き出せない(思考・判断・表現できない)のでは？

○課題4 → 「問い」の違いを意識する必要

既に定まった一つの答えがある問題を考える場合、導き出す手続きとともに、考えて導き出した答えが正しいかどうかの評価のポイントとなる。

問い



答え

一つの正しい答え

まだ定まった答えがない問題を追究する場合、答えを導き出す手続きと自分の答えの妥当性を考え、説明できるかが評価のポイントとなる。

答えが定まっていない

○科学的哲学上の二つの考え方

A 科学的实在論



VS

B 社会構成主義



人間の認識活動とは独立の世界があって、その世界はあらかじめ構造と秩序をもっており、われわれは、それを知る(発見する)ことができる。

あらかじめ世界の構造とか秩序があるのではなく、それは認識主観が構成して世界に押しつけるものであり、社会が変われば、構造も秩序も変わる。